

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400626		
法人名	有限会社ハートウォーミング		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	札幌市西区発寒14条3丁目6-16		
自己評価作成日	平成22年11月17	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400626&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	2010年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかに生活できるよう(環境因子を把握し改善する)住居・精神・内科等専門医との連携を取りながら支援している。 地域との交流がある(町内会行事に参加:当社のデイサービスとの交流(マージャン・合同バーベキュー・塗り絵・歌・ゲーム等) 家族支援力のある方へは在宅復帰に向けての支援を行っている(骨折後の転落防止による抑制と車椅子移動での筋力低下の改善)。 健康管理(栄養・排泄・清潔)はチェック表を活用し状態の把握に努めている。 嚥下力低下の方にはミキサー食とろみ利用での栄養低下の防止と水分摂取量の確保。 床ずれ予防には個人にあった対策をしている(エアーマット・羽毛布団利用) 自力歩行困難な方が他の入居者さんと交流が持てるよう、昼間は居間での生活スペースを設けた。 また 入浴は毎日出来る。庭があり季節の花が楽しめるよう手入れがされている。コンポストもあり台所の生ゴミを資源にしている。町内会に加入して行事への参加もしている。春のグループホーム火災後の消防との合同訓練に地域の方の参加があった。今年度は中学生の職場体験学習に利用していただいた。職員は地域の方が半数(7名)勤務している。家族さんとの連絡も訪問時や電話・手紙・ファックス・あさひ便りなどで行っている。ホームは掃除が行き届くよう配慮し不快な臭いも無い様換気やゴミの処理に気配りしている。

事業所は発寒地区住宅街に位置し、近くには商店街、小学校、病院、昨秋整備された公園等があり、生活の利便性に恵まれている。建物は2階建ての1ユニットで室内は広く明るく清掃も行き届き清潔である。床は段差がなく各所に手すりがあり、階段の段差は低く階段昇降機が設置されている。利用者がいつでもくつろげるように廊下には腰掛やソファを配置している。管理者は看護師としての豊かな経験を活かして日々、職員と共に利用者の健康管理に力を注いでいる。職員は積極的に各種研修へ参加し、適切な介護技術で利用者の立場に立ったサービスの提供に努めており、利用者の表情は明るく家族の信頼は厚い。毎月送付する手紙と共に事業所発行の「あさひだより」では外出行事や事業所での楽しい様子の写真が掲載しており家族の楽しみになっている。事業所の多機能化に取り組み近くの法人運営の民家を利用したデイサービスとの交流やショートステイでの家族支援を行う等地域の人々から期待されている事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域の中で普通に暮らすことを念頭に、地域の店での買い物、回覧板等で活動を知り参加している</p>	<p>「こころとからだで感じる心地よさ」を大切にしたい事業所独自の理念を玄関に掲示している。理念に沿って会議で話し合い互いに認識しサービスの実践に活かしている。</p>	<p>理念を玄関に掲示するだけでなく、事業所案内パンフレットにも載せることを期待したい</p>
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し、活動のあるときは利用者とともに参加している。運営推進会議での説明を行っている</p>	<p>近隣小学校を会場とした「すこやか倶楽部」や介護予防センターでの転倒予防教室へ積極的に参加する等事業所が地域の一員として日常的に支援している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>来所や立ち話で話すことがある。町内会活動の勉強会で認知症についてお話したことがある</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>偶数月の第3水曜日午後1時から定例での会議を開催し報告している</p>	<p>定期開催している運営推進会議では家族・利用者・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告、利用者の医療連携の様子、地域との交流、事故報告、訓練も含めた防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果をあげている</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>西区のグループホーム管理者連絡会は毎月空き室状況を代表に報告し、代表が市・区に報告し入居希望の方への情報提供している</p>	<p>市・区のグループホーム管理者連絡会に参加している。事業所の実情やケアサービスの取り組みについて連絡を密に取りサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>転倒転落防止のための抑制はしていない。玄関は夜間を除き施錠はしていない。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルが整備されている。身体拘束をしないケアをおこなうために原因を探りケアを見直している。利用者の外出傾向は抑制せず気配り・目配りで見守りの工夫をしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>自分や自分の家族の立場で考えてされたくないことを考えて介護に当たっている。金銭管理についての搾取的行為には毅然とした態度で伝え保護に当たった</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用の方はいる。運営推進会議で話されたこともある		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明を行い、本人の納得を図っている。困難な方は入居後のかかわりで早期に落ち着けるような支援を行っている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は過去にあった。職員の名前がわからないといわれ写真を掲示している。他、苦情・意見箱を設置しているが意見はない。	利用者、家族等から希望や意向が出やすいよう訪問時、運営推進会議等で常に問いかけている。家族等の意見は事業所運営に反映されるようになっていいる。玄関に意見箱を設置し、外部苦情受付窓口を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の見直しを行い利用者と職員が楽しめる時を作った	日頃から意見を出し合っているが利用者との日常的なかかわりの中での職員の気づきや提案を取り入れ運営に反映し成果をあげている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外にならないよう仕事内容の把握や人員配置をしている。研修会参加への費用助成でケアの力の向上に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー研修、認知症の実践者研修、各種介護についての研修の場に参加させている。日常ケアについては管理者や管理者研修修了者が適切なケアの提供についての指導をしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・西区の管理者連絡会に参加し、交流・勉強などを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で利用者の状況を把握し、安心でき穏やかな生活ができるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の本人・家族さんとの面談で利用者の状況を把握し、どのように関わらせていただくか説明し、安心されるよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来ること、出来ないことを常にアセスメントし支援している。認知力・ADLなどを把握し、福祉用具の利用や医療の必要性を把握し支援している		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯、掃除、買い物などは声かけしてお願いしている。食器片付けは自ら積極的にしていただいている		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な訪問や買い物、通院支援を可能な方にはしていただいている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・兄弟・子供・親類等の訪問や便りが届いている。便りには代理で返事を書いている	家族と友人との交流が継続できるよう支援している。又、訪問者がゆっくりくつろげるよう多目的使用の和室がある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶やレク活動と一緒に楽しく参加していただけるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方には支援は出来る。なくなられた方にはミニアルバムなどで生活の様子を知っていただくようにしてきた		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	友人と会う、散歩にでる、趣味の活動(マージャンの参加)好物の買い物支援や、趣味や得意なことを積極的にしていただく時間を作っている	センター方式のシートを活用し、利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。函館の夜景を利用者と職員二人の配置で観に行ったり、帰宅願望の利用者とは近所を歩き気分転換をはかっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後の自宅訪問・担当相談員等から生活の様子を知るようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話の回数を多く持ち、体調と活動のバランスを見ながら日々のケアに当たっている。出来る力は発揮していただくよう言葉かけで力の発揮をしていただいている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問を受けたり手紙での情報交換・職員との話し合いの中で介護計画を作成している	職員の視点からだけでなく日頃のかかわりの中から得た情報を基に利用者、家族の意見を聴き関係者を含め職員全員で意見交換し介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヵ月毎の見直しはしている。日々の状態で細かい変化はあり変更実践がある		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの交流やショートステイでの家族支援を行っている。交流の際は他の方と溶け込みやすいよう場を作っている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の踊りの会の見学や、フラダンスボランティアの訪問、町内会行事の参加で非日常を楽しんでいる		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医師に継続診察を受けている。往診も受けており医師と密着した関係を保っている	利用者の日常健康管理は提携医師による月1回の訪問診療と看護師、職員によりなされている。利用者希望のかかりつけ医には入居後もそのまま受診できるように通院時の送迎もあり常に適切な医療が受けられるように支援している	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤兼務の看護師が介護職員とともに情報交換しケアに当たっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に経過情報を提供、入院中のお見舞いや家族さんとの連絡、医師の説明時には同席させていただいている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化看取りの支援について書面確認があるが、逐一協議しながら最期の支援を行う事している	「重度化・看取り支援に関する意向確認書」や「急変時における対応についての同意書」を作成し早い時期から本人や家族の希望を尊重し最善を尽くしており、看取りの経験もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は定期的には行っていない		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網に地域の方の協力はあるが、避難訓練の実践力は乏しい	避難訓練は年2回実施されている。消防署の協力の下、利用者・地域の参加で総合自主訓練が行われている。全館スプリンクラーが設置され、カーテンは防火加工済みである。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗された行動にも本人・周囲を不愉快にさせない対応をしている	職員は利用者の気持ちを大切に、誇りやプライバシーを損なわないように言葉かけや動作に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えたい用件はきちんと聞き(ほしいこと・不愉快なこと・ほしい物等)支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や体調・動きを見て思いを止めない配慮をしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧・外出時の着替えなど気配りし支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなどに参加されたりする。好みの把握もあり個別対応がある(カレー・肉・納豆など)	利用者は力量に応じて食事準備に参加している。枝豆の皮むきを利用者同士楽しく手伝ったり配膳、下膳をしている。職員と共に食卓を囲み談笑しながら食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶での把握と、個別的に覚醒時に水分を進めている。チェック表を用いて摂取の把握している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	虫歯と肺炎予防へ食後の洗浄介助や見守りがある。ナイトケアでは入れ歯はずしや手入れの確認をしている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で訴えられない方は見守りでサインを見て支援している	排泄記録の活用や利用者の生活リズムに添ってトイレに誘導して排泄の自立につなげている。紙パンツ・パット類を使用する際も利用者に合わせて検討している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(飲むヨーグルト・牛乳)野菜等、食品や運動・下剤の使用など		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能である。時間は複数の職員がいる時間をお願いしている。入浴時間は個々のこだわりを大事にしている。	毎日入浴が可能であり、利用者一人ひとりの希望にあわせ寛いだ入浴ができるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見る・食後の休息・隣室訪問での会話を楽しむ・ナイトケアでの入眠の支援をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利尿剤と排泄時間・血圧の把握で脳梗塞の予防、興奮状態の把握と頓服薬の使用などを把握し支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所、針仕事、好物が食べられる等、外出、友人との交流、趣味活動の継続などの支援がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など希望により支援はしているが、家族さんの協力は難しい。通院介助は出来る家族さんは支援されている	日常的に散歩や買い物、菜園造りをしている。年間行事の中に外出計画が多数盛り込まれ、家族や地域ボランティアの協力を得て、花見、遠足、アジサイ見物、ドライブ等希望にそって出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい忘れと物とられ妄想が出てきて攻撃的言葉や興奮が見られお金の管理が出来なくなった。買い物の同行時はほしいものを購入している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望の方は番号が解っているので電話をかけている 手紙も希望があれば投函している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られていたり、照明の色や、不快な騒音には気配りしている。トイレも汚れに気付いたらすぐ対処して位置も気持ちよく暮らせるよう配慮している	共用空間の壁には利用者の手芸作品や季節感のある手作りの壁飾り等がかざられている。食卓のいすの脚にはテニスボールを利用した滑り止めを取り付け、不快な音が出ないように工夫している。室内は明るく清潔で安全に配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの中に数箇所座れる所がある。休息が必要な方のスペースも作っている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの家具があり安心できる環境を作っている	居室には使い慣れた家具や調度品が置かれ、家族写真や手芸作品が飾られている。クローゼットのスペースを利用し仏壇を置くなど利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示を戸口にしている。食事の準備も一緒に行うときがある。物の置き場所もわかるように決まったところにおいている。薬の封を切るハサミ・食器洗い桶や布巾の準備など		